**オルガノン要約　§16～22**

§16　生命エネルギーは精神的でダイナミックなものなので、精神的でダイナミックなもの以外の影響を受けることはありえない。

注意深く観察し研究すれば、治療に必要なだけ完全に病気が示される。（§11参照）

§17　症状の総体を取り除くこと＝病気の全体を根絶させること。

医師の使命は、いかにも学があるように見せかける無駄話をすることではなく、病気の人を治療することである。

　（注）相当に乱れた慢性病でも取り除くことができる。

　（注）もし根絶できないとしたら神の知恵や善はないことになる。

§18　適切なレメディーを指し示す唯一のものは、症状と付随的状況の全体像である。

§19　病気の定義：

病気とは健康状態が変化したもの。

レメディーは人間の感覚と機能を変化させることができるので、病気を治癒することができる。

§20　頭で懸命に考えたとしてもレメディーの内的で精神的なエネルギーは分からない。

§21　レメディーの定義：

レメディーは健康な人間の状態を変化させ、いくつかの特定の症状を生じさせるものに他ならない。

レメディーがどのようなエネルギーを持っているかはプルービングの情報だけをよりどころにしなければならない。

§22　レメディーとアロパシー薬：薬もレメディーもある種人為的な病気の状態を作り出す。そして、類似か反対の症状を生じさせることで治癒を達成する。もちろん類似のものによってより効果は出るのだが・・・。類似でも反対でもない薬の適用の仕方がアロパシーのやり方である。

（注）アロパシー批判：生命エネルギーは病気の時、乱れを表現することができるだけであり、自らを治癒することはできない。その生命エネルギーの乱れによる表現を模倣（下剤・吐剤・瀉血など＝当時のアロパシー医がしたこと）しても決して治癒には至らない。